

④ 33歳 独自行車を組み立てる

文久2年(1862)2月6日、江戸藩邸で謹慎中だった松平春嶽しゅんがくの元に権六が参上し、「ビラスビイデどっこうし独自行車を組み立てた」という記事が「御側おそば向頭取御用日記」に記されています。

「ビラスビイデ」とは「velocipede」(ベロシペード)を指すものと考えられており、自転車の前身にあたる乗り物とされます。横浜帰りの権六は、おそらく海外から輸入されたこの乗り物を江戸に運び、機械工学の技術を用いて組み立てました。

春嶽は、この日のうちに、馬場においてこの独自行車に試乗できていることから、3輪だった可能性が指摘されていますが、現物が残っていないため詳細は不明です。

先の日記によれば、翌7日、14日にも家臣の前で試乗が行われており、春嶽がこの乗り物を気に入ったことが読み取れます。同23日には、正室の勇姫いさひめも春嶽と馬場に来て、試乗が行われたと記されていますが、勇姫自身が乗ったかどうかまではわかりません。

この後、春嶽は謹慎を解かれ、中央政局に復帰することになるため、独自行車の記事は見られなくなりますが、この4日間の記事は日本で最初の自転車資料としても注目されています。



FIG. 3. THE ENGLISH DANDY HORSE.



FIG. 5. THE "RANTOONE."

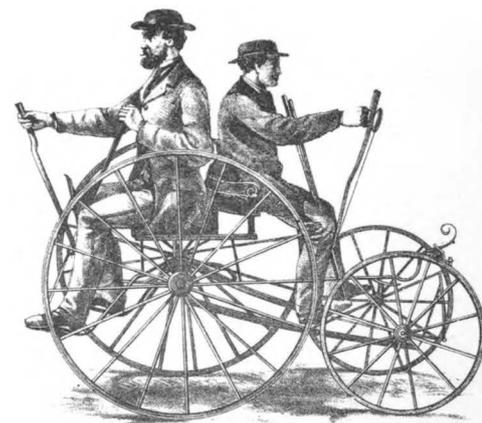


FIG. 4. THE FOUR-WHEELED VELOCIPEDE.

The velocipede : its past, its present & its future. by Joseph Firth Bottomley in 1869.

* 1869年刊行の書籍『ベロシペード』掲載図。足で地面を蹴る2輪やペダルではなくレバー操作する形のものもあります。